



## 2023タケノコ・山菜プロジェクト 放射性セシウム測定結果報告

# 2023タケノコ・山菜プロジェクトの取り組み

福島第一原発事故から12年目の春、福島では帰還困難区域の全ての特定復興再生拠点解除となり、年間20 mSv以下の地域への帰還政策がすすめられています。しかし、山野の放射能汚染は今も継続中です。

半減期2年のセシウム-134こそ事故時の1.6%にまで減少し、測定しても検出が困難になってきましたが、半減期30年のセシウム-137はまだ75%ほど残留しています。したがって、セシウム-134とセシウム-137を合算した放射性セシウムは、現在も事故時の39%が残留しています。

特に山野に蓄積した放射性セシウムはそのまま残留・保存されていますので、山野草や野生獣肉の採取・利用には注意が必要です。2023年の春も、タケノコ・山菜の放射性セシウム濃度測定プロジェクトに取り組みました。

## ●試料採取の対象地域と方法

対象地域：17都県（青森県・秋田県・山形県・新潟県・岩手県・宮城県・福島県・栃木県・群馬県・茨城県・千葉県・神奈川県・東京都・埼玉県・山梨県・静岡県・長野県）、ただし、コシアブラは全国を対象とした

採取方法：通販（ネット等流通販売品）、店舗（道の駅・直売所・スーパー等店頭販売品）、縁故（自家採取・もらいもの等非販売品）

## ●試料測定期間：2023年4月2日～2023年7月27日

なお、このプロジェクトは「12人の絵本作家が描く2022おうえんカレンダープロジェクト」など、多くの皆様のご支援を受けて実施しました、ここに感謝申し上げます。

# 放射性セシウムの測定機種と参加測定室

## Nalシンチレーションガンマ線核種分析装置 (Nal)

- AT1302A : さっぽろ市民放射能測定所 はかーる・さっぽろ (北海道)  
あがの市民放射線測定室「あがのラボ」 (新潟県)  
那須希望の砦 (栃木県)  
森の測定室 滑川 (埼玉県)  
東林間放射能測定室 (神奈川県)  
はかるなら (奈良・市民放射能測定所) (奈良県)
- EMF211 : みんなの放射線測定室「てとてと」 (宮城県)
- CAN-OSP-Nal : JCF Teamめとば (長野県)  
未来につなげる・東海ネット市民放射能測定センター (C-ラボ) (愛知県)
- CSK3i : 阪神・市民放射能測定所 (兵庫県)

## Ge半導体ガンマ線核種分析装置 (Ge)

- PGT : 認定NPO法人 ふくしま30年プロジェクト (福島県)
- ISOCS Shield: 未来につなげる・東海ネット市民放射能測定センター (C-ラボ)

以上、Nal4機種・Ge2機種、11測定室で取り組みました。

# 放射性セシウムの測定とデータ処理条件等

測定時間 : 1250~241200秒

試料重量 : 31~968 g

検出下限値 : 0.1~22.8 Bq/kg

- ・ 検出下限値は、測定時間・試料重量・計測器の性能やバックグラウンドによって異なります。今回は、0.1~22.8 Bq/kgの範囲でした。
- ・ 測定結果の統計処理は、検出下限値未満すなわち不検出の場合は「0」として処理しました。なお、統計値には平均値も示しましたが、大きな値があるとその数値に引っ張られてしまうので、全ての値を小さい方から順に並べて、ちょうど真ん中の値を示す中央値も示しました。
- ・ 地図上の測定結果の位置は、生産地(一部購入地)の県庁もしくは市町村役場(所)の位置に表示しました。
- ・ なお、食品基準値の100 Bq/kgを超える放射性セシウムが検出された場合、当該検体の入手者(購入者・採取者等)もしくは当該測定室は、もより保健所に届け出て、検体の産地の行政対応および出店者等の注意喚起を促すための要請行動も実施しています。

# 図T-1 2023タケノコ の放射性セシウム 測定結果マップ

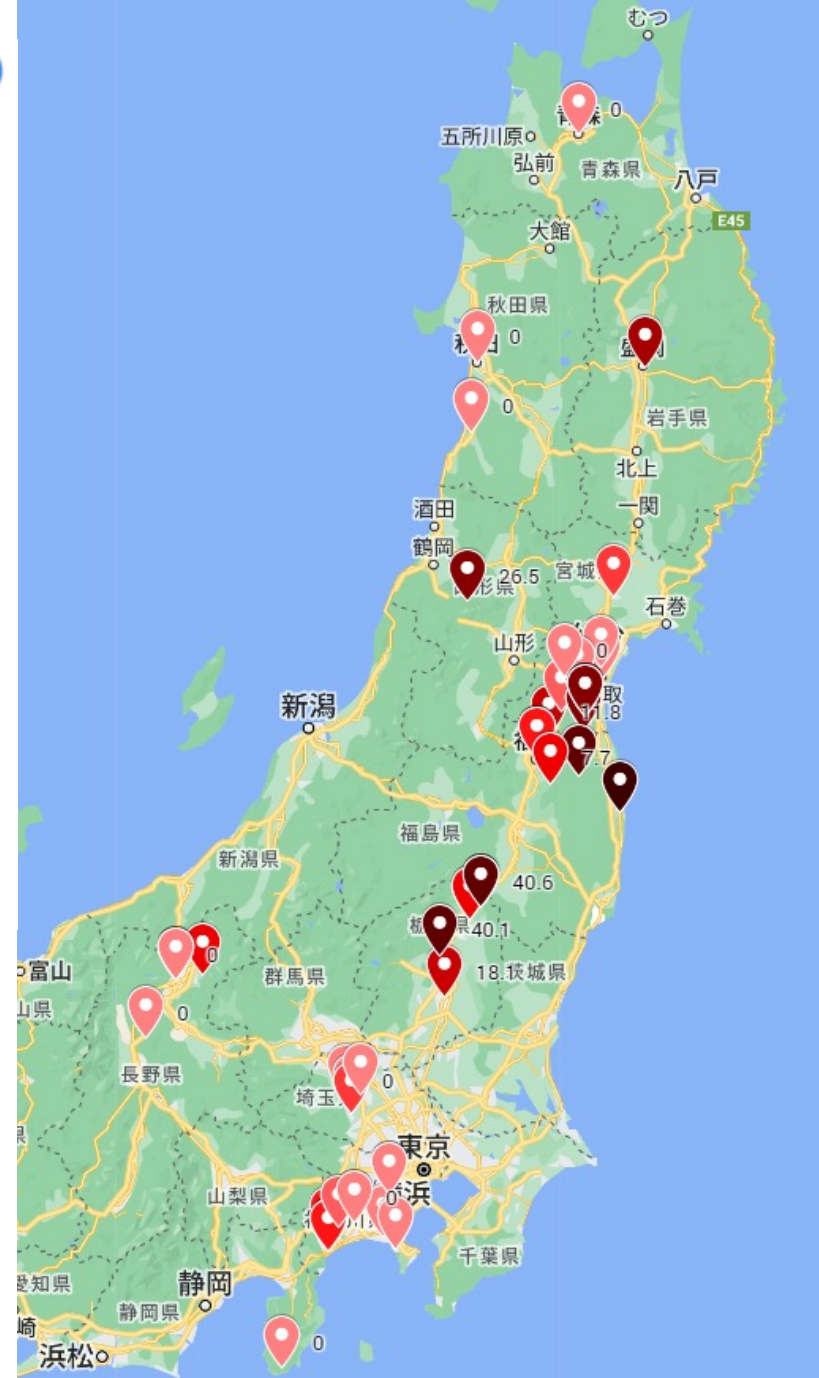
<https://www.google.com/maps/d/edit?mid=11xGXNqaJDaXqXthVFRufAGzUxu70KV4&usp=sharing>

Google Map上で、各ポイントをクリックすると詳細をみることができます。

## 放射性セシウム (Bq/kg)

- 0 - 3.11 (25)
- 3.17 - 4.38 (4)
- 5.05 - 5.46 (4)
- 5.85 - 7.5 (3)
- 7.7 - 11.3 (4)
- 11.8 - 18.1 (4)
- 18.52 - 20.84 (3)
- 23.43 - 29.2 (4)
- 30.2 - 40.6 (4)
- 62.3 - 671.4 (3)

\* 括弧内件数



# 表T-1 2023タケノコの放射性セシウム測定結果

品名	件数	検出数 *1	検出率 (%)	最大値 (Bq/kg)	平均値 (Bq/kg) *2	中央値 (Bq/kg) *2	基準超過 件数	基準超過率 (%)
タケノコ*3	42	26	62	79.4	11.0	3.9	0	0
ネマガリタケ	7	4	57	26.5	9.2	8.5	0	0
ハチク	7	5	71	671	104	7.7	1	14.3
ホテイチク	1	1	100	—	—	23.4	0	0
カラダケ	1	0	0	—	—	0.0	0	0
まとめ	58	36	62	671	22.1	4.7	1	1.7

\*1: 検出下限値以上の検体数

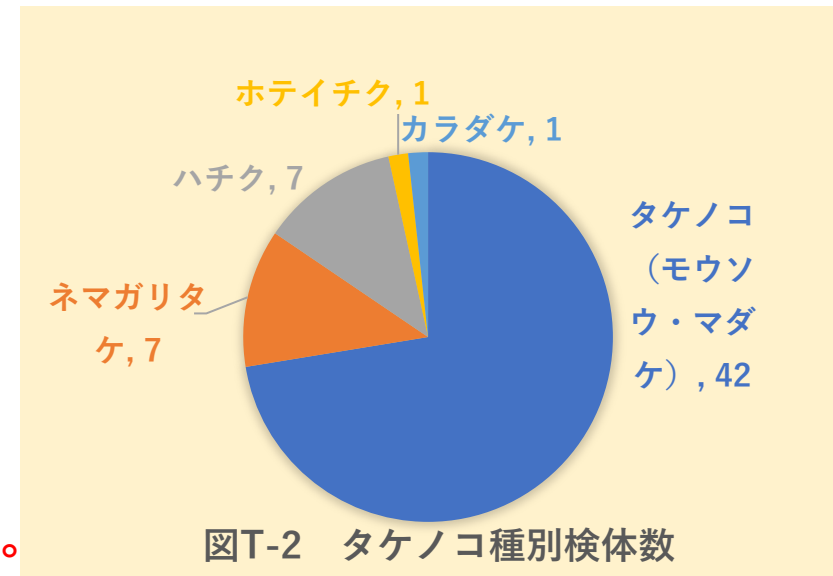
\*2: 検出下限値未満を「0」として算出

\*3: モウソウチク・マダケと特定された9件も含有

タケノコは、モウソウダケ・マダケを42件、ネマガリダケとハチクを各7件、ホテイチクとカラダケを各1件の58件を調査しました。

検出下限値以上で検出されたのは62% (36/58) で、最大値は福島県双葉郡浪江町で採取されたハチクの671 Bq/kg、中央値は4.7 Bq/kgでした。

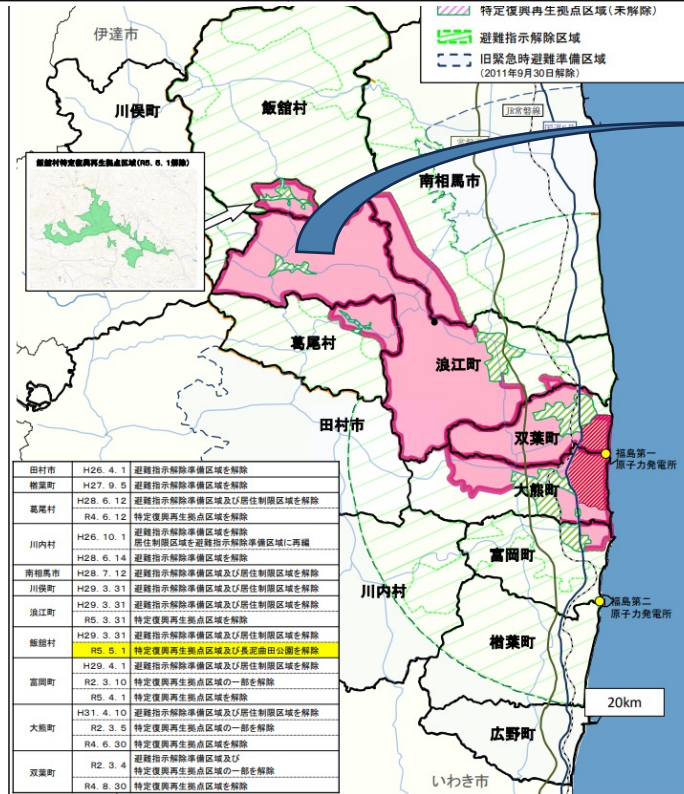
タケノコについても今なお多くの市町村で出荷制限・出荷自粛が出されていますが、本調査では、浪江町の解除された帰還困難区域の特定復興拠点地区で採取されたハチクのみが食品基準値(100 Bq/kg)を超過しました。



表T-2 食品基準値を超過したタケノコの産地と放射性セシウム濃度・出荷制限・採取法

品名	産地	放射性セシウム (Bq/kg)	出荷制限	採取法
ハチク	福島県双葉郡浪江町	671	有	縁故

タケノコの食品基準値超過は58件中1件で、放射性セシウム濃度は671 Bq/kgでした。2023年春に解除された福島県双葉郡浪江町の帰還困難区域の特定復興再生拠点の津島地区で採取されたものです。測定結果が示すように、当然、食用目的での採取は許されませんが、明らかです。



福島県双葉郡浪江町津島神社奥の境内と植林地の境目付近で採取

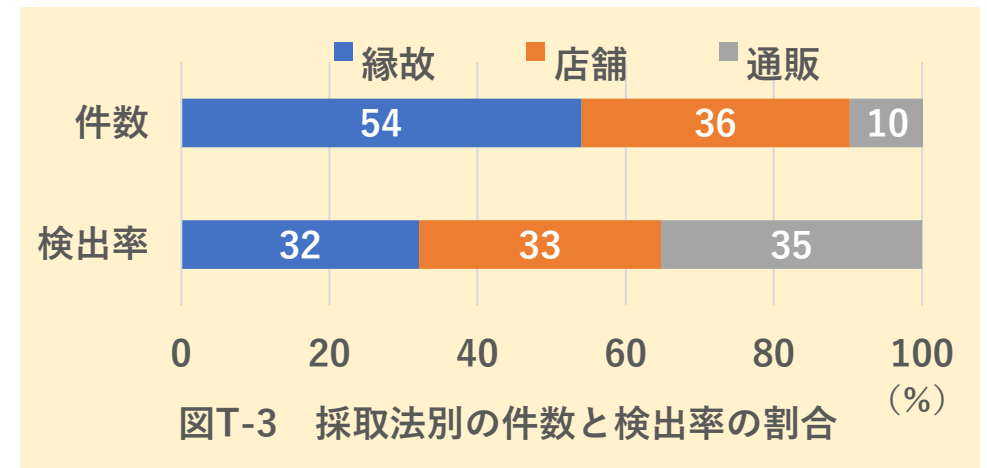


# 表T-3 2023タケノコの採取法別検体数と放射性セシウム測定結果

採取法	件数 (%)	検出数 *1	検出率 (%)	最大値 (Bq/kg)	平均値 (Bq/kg) *2	中央値 (Bq/kg) *2	基準超過 件数	基準超過 率 (%)
通販	6 (10)	4	67	26.5	12.3	13.8	0	0
店舗	21 (36)	13	62	40.1	5.7	3.2	0	0
縁故	31 (54)	19	61	671	35.0	5.5	1	3.2
まとめ	58 (100)	36	62	671	22.1	4.7	0	1.7

\*1：測定結果が検出下限値以上で数値化された(不検出ではない) 件数      \*2：検出下限値未満を「0」として算出

タケノコの調査件数は58件で、採取法別の比率は、縁故54%、店舗36%、通販10%でした。タケノコの放射性セシウム検出率は、採取法によらずほぼ同一比率でした。また、タケノコ全体の検出率は、62% (36/58) でした。放射性セシウム濃度は、縁故品1件のみに食品基準値超過が見られましたが、中央値で見ると、通販品が13.8 Bq/kgで高目の傾向にあり、次いで縁故品5.5 Bq/kg、店舗3.2 Bq/kgでした。



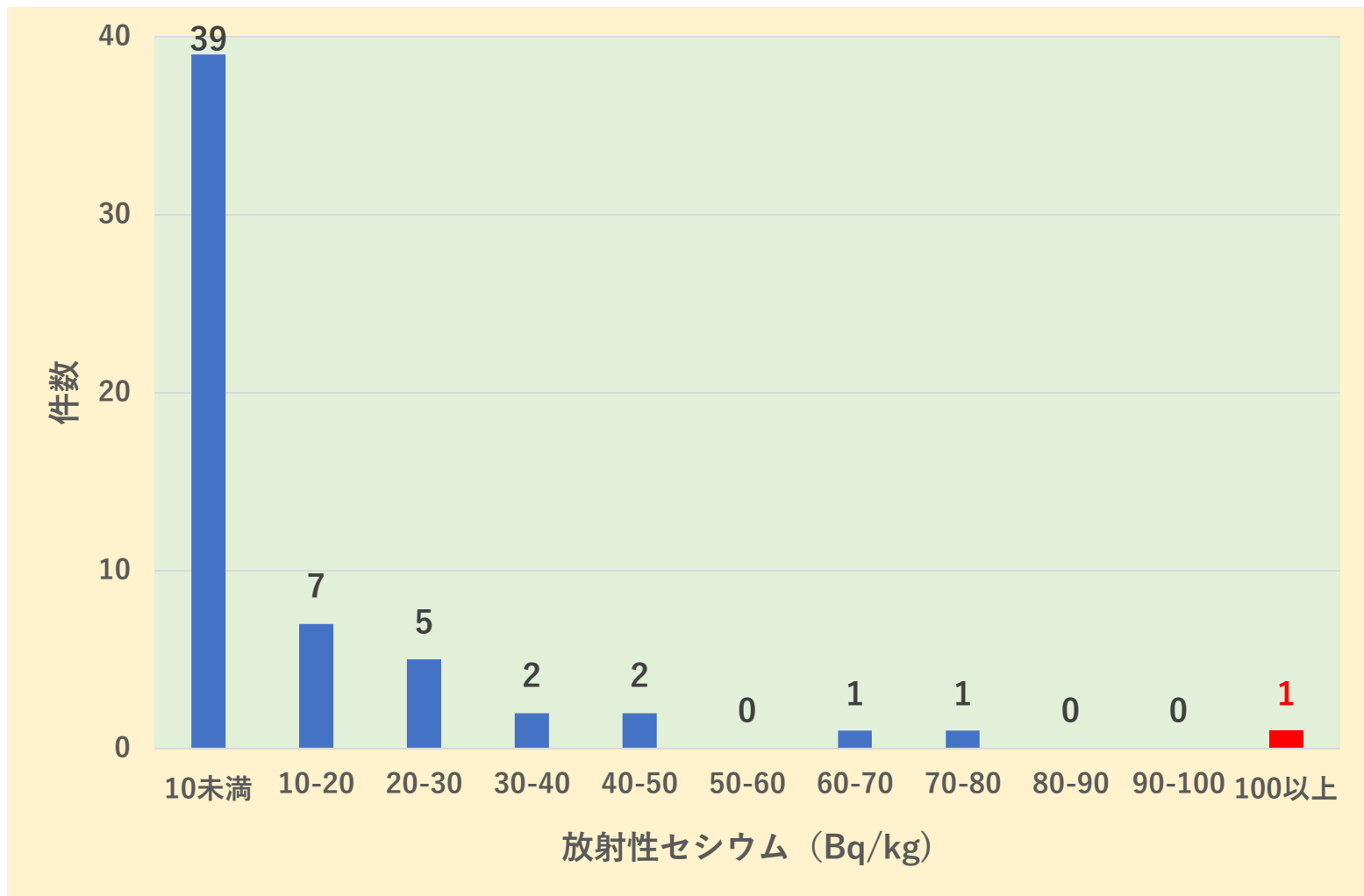


# 表T-4 2023タケノコの産地別放射性セシウム測定結果

都県名	件数	検出件数	検出率 (%)	最大値 (Bq/kg)	平均値 (Bq/kg)	中央値 (Bq/kg)	食品基準値超過件数	食品基準超過率 (%)	調査品目	基準値超過品目 (件数)
宮城県	16	7	44	28.5	6.0	0.0	0	0	タケノコ (14)、ホテイチク (1)、カラダケ (1)	
神奈川県	11	8	73	7.5	3.1	3.1	0	0	タケノコ (11)	
栃木県	8	8	100	79.4	32.9	29.7	0	0	タケノコ (7)、ハチク (1)	
福島県	7	7	100	671	114	11.8	1	14.3	タケノコ (3)、ハチク (4)	ハチク (1)
長野県	5	2	40	9.5	3.6	0.0	0	0	タケノコ (1)、ネマガリダケ (2)、ハチク (2)	
埼玉県	5	2	40	5.5	1.8	0.0	0	0	タケノコ (5)	
秋田県	2	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	ネマガリダケ (2)	
青森県	1	0	0	—	—	—	0	0	ネマガリダケ (1)	
山形県	1	1	100	—	—	26.5	0	0	ネマガリダケ (1)	
岩手県	1	1	100	—	—	19.8	0	0	ネマガリダケ (1)	
静岡県	1	0	0	—	—	—	0	0	タケノコ (1)	
まとめ	58	36	62	671	22.1	4.7	1	1.7	タケノコ (42)、ネマガリダケ (7)、ハチク (7)、ホテイチク・カラダケ (各1)	ハチク (1)

調査した11県のうち検出が見られなかったのは、秋田県・青森県・静岡県の3県でした。全体の放射性セシウム検出率は62%でしたが、検出率が100%であったのは、複数以上採取した産地のうち栃木県と福島県でした。また、これらのうち、福島県のハチク1件に食品基準値超過がみられました。

# 図T-4 2023タケノコの放射性セシウム測定結果の度数分布



タケノコの放射性セシウム濃度は10 Bq/kg未満が67% (39/58) で、そのうち検出下限値未満は58% (107/185) でした。最大値は671 Bq/kgの福島県双葉郡浪江町のハチクでした。本調査ではこのハチク1件のみが食品基準値を超えていました。なお、タケノコの中央値は4.7 Bq/kgでした。

# 図S-1 2023山菜 の放射性セシウム 測定結果マップ

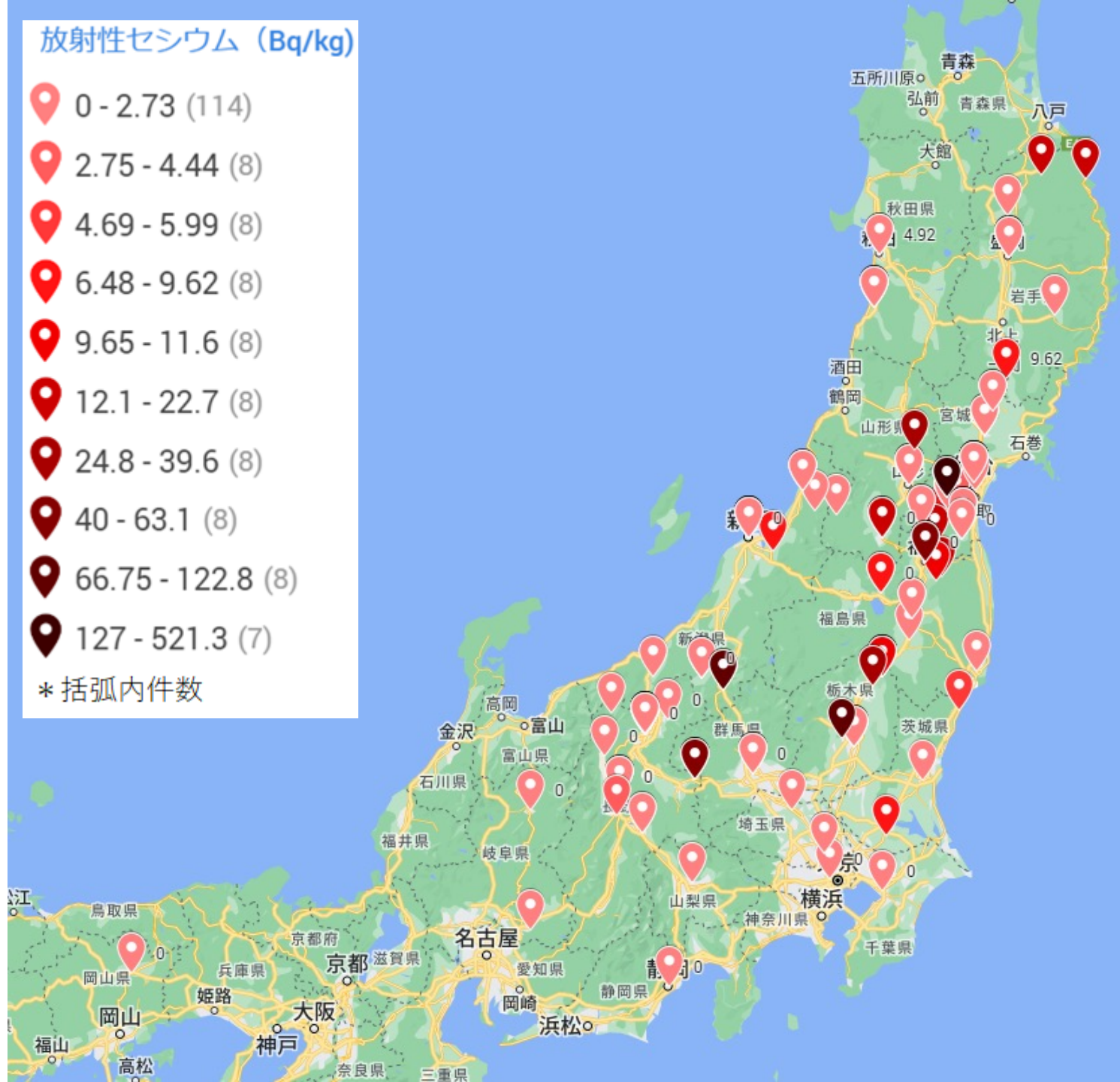
<https://www.google.com/maps/d/edit?mid=1JvD2OIMAndsShPaUzT6Qh-kKAqPvA7w&usp=sharing>

Google Map上で、各ポイントをクリックすると詳細をみることができます。

## 放射性セシウム (Bq/kg)

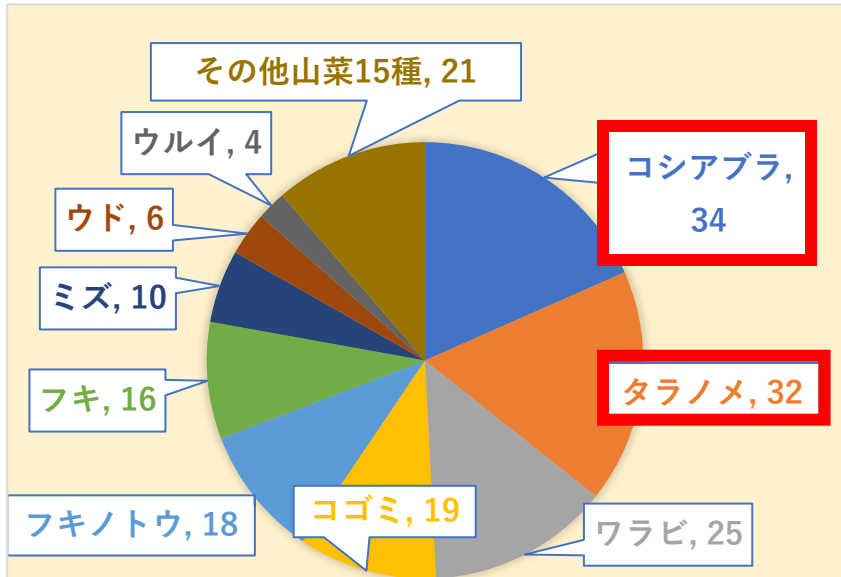
- 0 - 2.73 (114)
- 2.75 - 4.44 (8)
- 4.69 - 5.99 (8)
- 6.48 - 9.62 (8)
- 9.65 - 11.6 (8)
- 12.1 - 22.7 (8)
- 24.8 - 39.6 (8)
- 40 - 63.1 (8)
- 66.75 - 122.8 (8)
- 127 - 521.3 (7)

\* 括弧内件数



# 表S-1 2023山菜の放射性セシウム測定結果

山菜は24種で185件、そのうちコシアブラは汚染地指定17都県以外の2県からの3件を含む計34件を調査しました。山菜の検出率は、42% (77/185) で、最大値は栃木県那須郡那須町産のコシアブラで521 Bq/kg、中央値は検出下限値未満でした。食品基準値を超過した山菜は、コシアブラ9件、タラノメ2件の11件で、基準値超過の比率は5.9% (11/185) でした。コシアブラの検出率は79%、基準値超過比率は26.5%と高く、中央値も24.9 Bq/kgで山菜の中でのコシアブラの高濃度傾向は続いています。タラノメも検出率は53%と高く、基準値超過比率6.3%、中央値は3.8 Bq/kgでした。



図S-2 山菜種別検体数 (赤枠基準超過試料有)

名称	件数	検出数* 1	検出率 (%)	最大値 (Bq/kg)	平均値 (Bq/kg) *2	中央値 (Bq/kg) *2	基準超過 件数	基準超過率 (%)
コシアブラ	34	27	79	521	74.0	24.9	9	26.5
タラノメ	32	17	53	355	22.3	3.8	2	6.3
ワラビ	25	9	36	99.5	7.1	0.0	0	0
コゴミ	19	3	16	66.8	6.9	0.0	0	0
フキノトウ	18	6	33	47	6.5	0.0	0	0
フキ	16	2	13	11	0.9	0.0	0	0
ミズ	10	2	20	5.7	1.2	0.0	0	0
ウド	6	2	33	40.0	7.0	0.0	0	0
ウルイ	4	1	25	4.7	1.2	0.0	0	0
アイコ	2	1	50	1.4	0.7	0.7	0	0
サンショウ	2	1	50	11.6	5.8	5.8	0	0
シドケ	2	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0
ツクシ	2	0	0	—	—	0.0	0	0
ハリギリ	2	2	100	—	—	0.0	0	0
モミジガサ	2	2	100	10.0	6.1	6.1	0	0
ドクダミ*3	1	1	100	—	—	11.3	0	0
セリ	1	1	100	—	—	5.7	0	0
イタドリ	1	0	0	—	0.0	0.0	0	0
イワダラ*4	1	0	0	—	0.0	0.0	0	0
ウコギ	1	0	0	—	—	0.0	0	0
クワデ	1	0	0	—	0.0	0.0	0	0
チャンチン*5	1	0	0	—	—	0.0	0	0
マタタビ	1	0	0	—	—	0.0	0	0
ミズナ	1	0	0	—	—	0.0	0	0
まとめ	185	77	42	521	20.4	0.0	11	5.9

\*1: 検出下限値以上で数値化された (不検出でない) 件数

\*2: 検出下限値未満を「0」として算出

\*3: 乾燥品で測定し、生換算値使用

\*4: 別名ヤマブキショウマ

\*5: 漢字 (香椿芽)

## 表S-2 2023山菜の採取法別検体数と測定結果

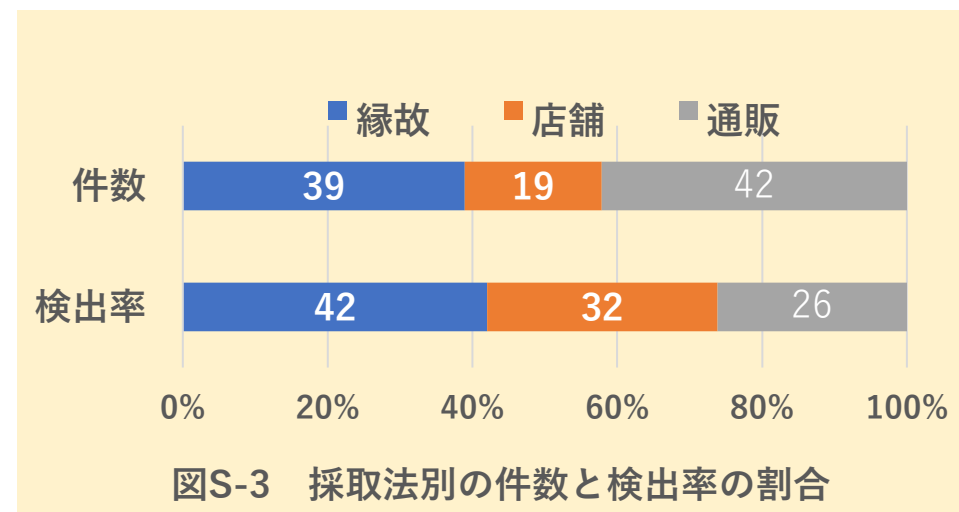
採取法	件数 (%)	検出数 *1	検出率 (%)	最大値 (Bq/kg)	平均値 (Bq/kg) *2	中央値 (Bq/kg) *2	基準超過件 数	基準超過率 (%)
通販	78 (42)	26	33	111	7.9	0.0	1	1.3
店舗	35 (19)	14	40	75.2	6.3	0.0	0	0
縁故	72 (39)	38	53	521	41.9	3.2	10	13.9
まとめ	185 (100)	78	42	521	20.8	0.0	11	5.9

\*1：測定結果が検出下限値以上で数値化された(不検出ではない) 件数

\*2：検出下限値未満を「0」として算出

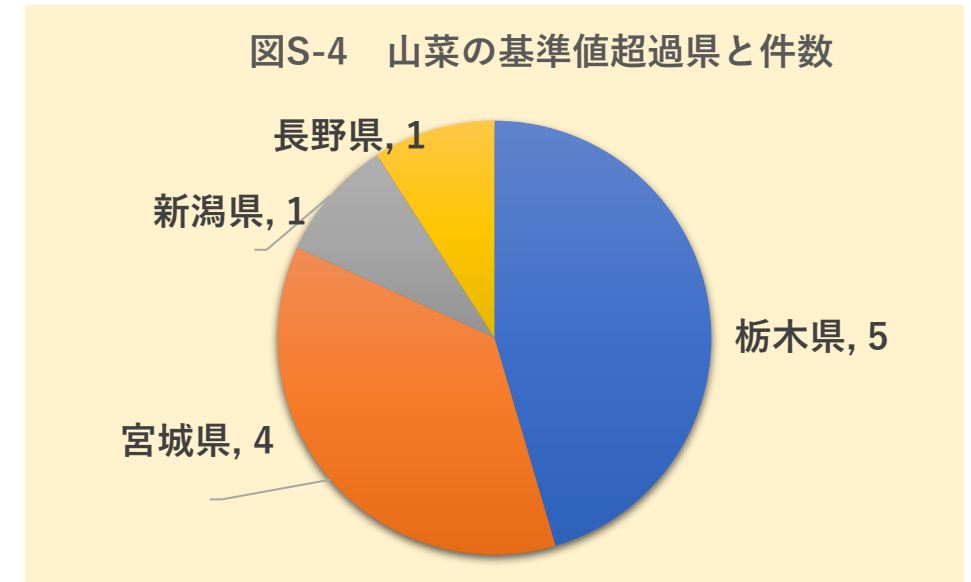
山菜の調査件数は185件で、採取法別の比率は、通販42%、縁故39%、店舗19%でした。放射性セシウムの検出率は、縁故53%、店舗40%、通販33%で、山菜全体の検出率は42% (78/185) でした。

放射性セシウム濃度は、自家採取された縁故品10件(13.9%)と通販1件(1.3%)に食品基準値超過が見られました。山菜全体の中央値は検出下限値未満でしたが、縁故品の中央値は3.2 Bq/kgで他の採取品に比べて高目の傾向にありました。



## 表S-3 食品基準値を超過した山菜の産地と放射性セシウム濃度・出荷制限・採取法

品名	産地	放射性セシウム (Bq/kg)	出荷制限	採取法
コシアブラ	栃木県那須郡那須町	521	有	縁故
コシアブラ	栃木県那須郡那須町	513	有	縁故
タラノメ	宮城県角田市	355	無	縁故
コシアブラ	宮城県角田市	266	無	縁故
コシアブラ	栃木県那須郡那須町	144	有	縁故
タラノメ	栃木県那須郡那須町	133	有	縁故
コシアブラ	宮城県柴田郡川崎町	127	無	縁故
コシアブラ	宮城県角田市	123	無	縁故
コシアブラ	栃木県宇都宮市	118	有	縁故
コシアブラ	新潟県南魚沼郡湯沢町	111	有	通販
コシアブラ	長野県北佐久郡軽井沢町	105	有	縁故



食品基準値超過が見られたのは、コシアブラ9件、タラノメ2件の11件で全体の5.9%でした。

コシアブラは測定件数34件で、そのうち27件の79%は検出下限値以上の濃度を示し、最大値は521 Bq/kgで、中央値は24.9 Bq/kg、基準値超過は9件（栃木県産4件、宮城県産3件、新潟県・長野県産各1件）の26.5%でした。

タラノメは測定件数32件で、そのうち17件の53%は検出下限値以上の濃度を示し、最大値は355 Bq/kgで、中央値は3.8 Bq/kg、基準値超過は2件（栃木県・宮城県産各1件）の6.3%でした。

食品基準値超過11件のうち、縁故品10件については、出荷制限の有無にかかわらず、非売品で汚染度を確認するための測定と推測されました。残りの1件は通販品で出荷制限有りの地域からの販売品でした。出荷制限ありの地域からの販売品については行政対応が必要です。また、たとえ縁故品であっても、出荷制限無しのものについては、行政の監視の甘さが露呈しています。基準超過品については、出荷制限の有無にかかわらず、行政・出荷者・流通業者への注意喚起が必要です。

# 表S-4 2023山菜の産地別放射性セシウムの測定結果

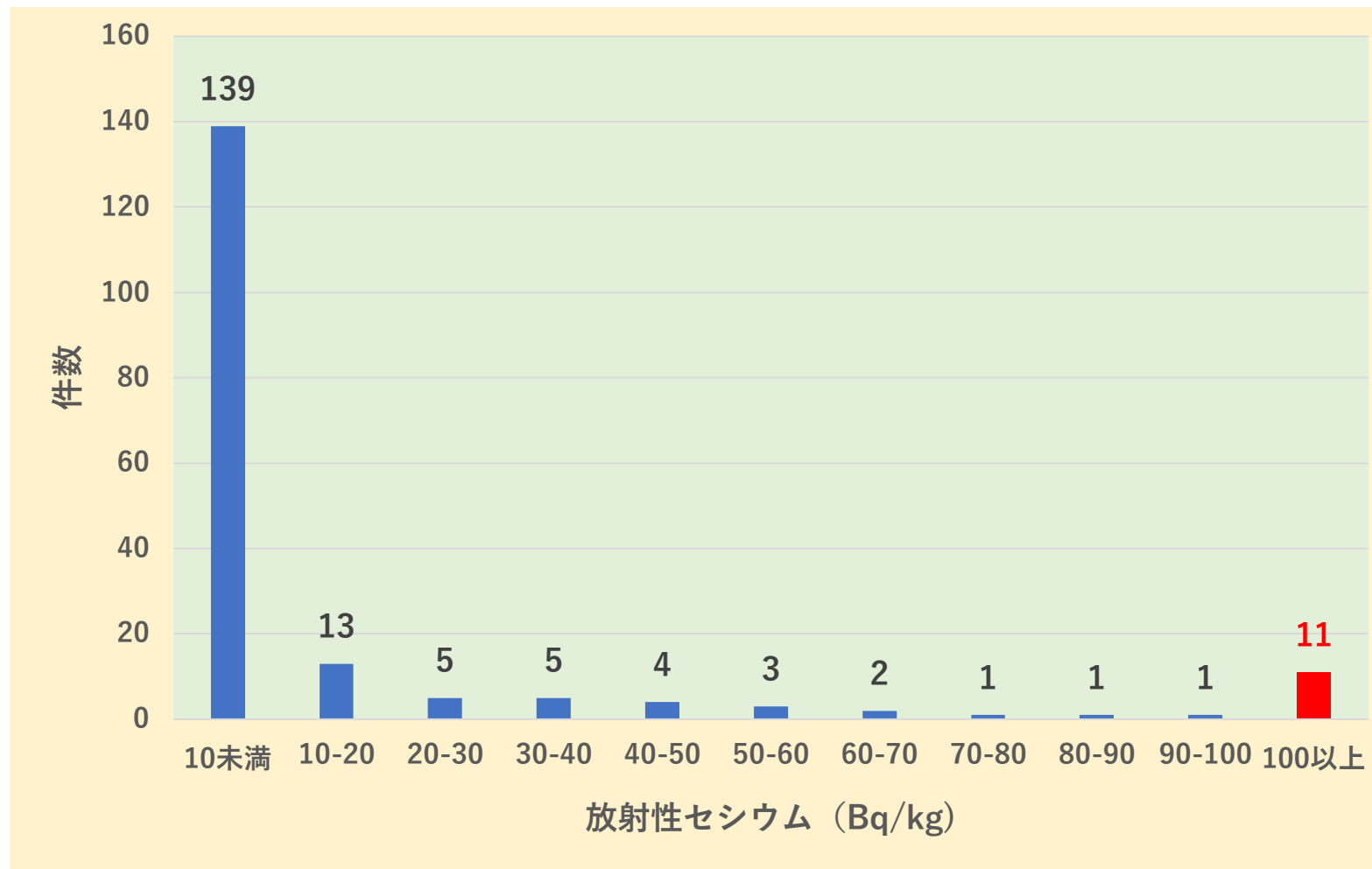
都県名	件数	検出数*1	検出率 (%)	最大値 (Bq/kg)	平均値 (Bq/kg)*2	中央値 (Bq/kg)*2	基準値超過件数	基準超過率 (%)	調査品目 (件数)	基準値超過品目 (件数)
宮城県	53	27	50.9	355	20.5	1.4	4	7.5	タラノメ (17)、ワラビ (7)、コシアブラ (5)、フキノトウ・コゴミ・フキ・ミズ (各4)、ウド (3)、ウルイ・アイコ・モミジガサ・イワダラ・クワデ (各1)	コシアブラ (3)、タラノメ (1)
長野県	27	9	33.3	105	13.0	0.0	1	3.7	ワラビ (6)、コシアブラ・コゴミ・フキ (各5)、フキノトウ (3)、タラノメ (2)、ハリギリ (1)	コシブラ (1)
新潟県	23	4	17.4	111	10.1	0.0	1	4.3	コシアブラ (7)、コゴミ (4)、タラノメ・ワラビ・フキノトウ・ミズ (各2)、ウド・ウルイ・イタドリ・ミズナ (各1)	コシアブラ (1)
福島県	19	11	57.9	75.2	11.6	4.8	0	0	ワラビ (5)、フキ (3)、フキノトウ・サンショ (各2)、コシアブラ・タラノメ・コゴミ・ウド・シドケ・セリ・ウコギ (各1)	
栃木県	16	14	87.5	521	110.1	41.7	5	31.3	コシアブラ (6)、タラノメ (4)、ワラビ・フキノトウ・コゴミ・フキ・モミジガサ・ドクダミ (1)	コシアブラ (4)、タラノメ (1)
山形県	11	4	36.4	47.0	9.8	0.0	0	0	フキノトウ (4)、コシアブラ (3)、コゴミ (2)、タラノメ・ミズ (各1)	
岩手県	11	5	45.5	13.0	3.9	0.0	0	0	コシアブラ・タラノメ・ミズ (各2)、フキノトウ・ウルイ・アイコ・ハリギリ・マタタビ (各1)	
秋田県	8	2	25.0	4.9	0.9	0.0	0	0	コシアブラ・コゴミ (各2)、タラノメ・ワラビ・ウド・ミズ (各1)	
群馬県	4	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	フキ (2)、タラノメ・シドケ (各1)	
茨城県	3	2	66.7	7.8	4.2	4.7	0	0	ワラビ (2)、ウルイ (1)	
埼玉県	3	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	フキ・ツクシ・チャンチン (各1)	
東京都	1	0	0.0	—	—	—	0	0	フキノトウ (1)	
千葉県	1	0	0.0	—	—	—	0	0	ツクシ (1)	
山梨県	1	0	0.0	—	—	—	0	0	ワラビ (1)	
静岡県	1	0	0.0	—	—	—	0	0	タラノメ (1)	
岐阜県	2	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	コシアブラ (2)	
岡山県	1	0	0.0	—	—	—	0	0	コシアブラ (1)	
まとめ	185	78	42.2	521	20.7	0.0	11	5.9	タラノメ (32)、コシアブラ (34)、ワラビ (25)、コゴミ (19)、フキノトウ (18)、フキ (16)、ミズ (10)、ウド (6)、ウルイ (4)、アイコ・サンショ・シドケ・ツクシ・ハリギリ・モミジガサ (各2)、ドクダミ・セリ・イタドリ・イワダラ・ウコギ・クワデ・チャンチン・マタタビ・ミズナ (各1)	コシアブラ (9)、タラノメ (2)

\*1：検出下限値以上で数値化された（不検出でない）件数

\*2：検出下限値未満を「0」として算出

調査した17都県のうち、検出が見られなかったのは8県で、全体の検出率は42%でした。食品基準値超過はコシアブラ9件（栃木県4・宮城県3・長野県1・新潟県1）、タラノメ2件（宮城県1・栃木県1）でした。中央値は高い方から栃木県41.7、福島県4.8、茨城県4.7 Bq/kg、宮城県1.4 Bq/kgで、長野県・新潟県には基準値超過が1件ずつ見られたものの、中央値は検出下限値未満でした。

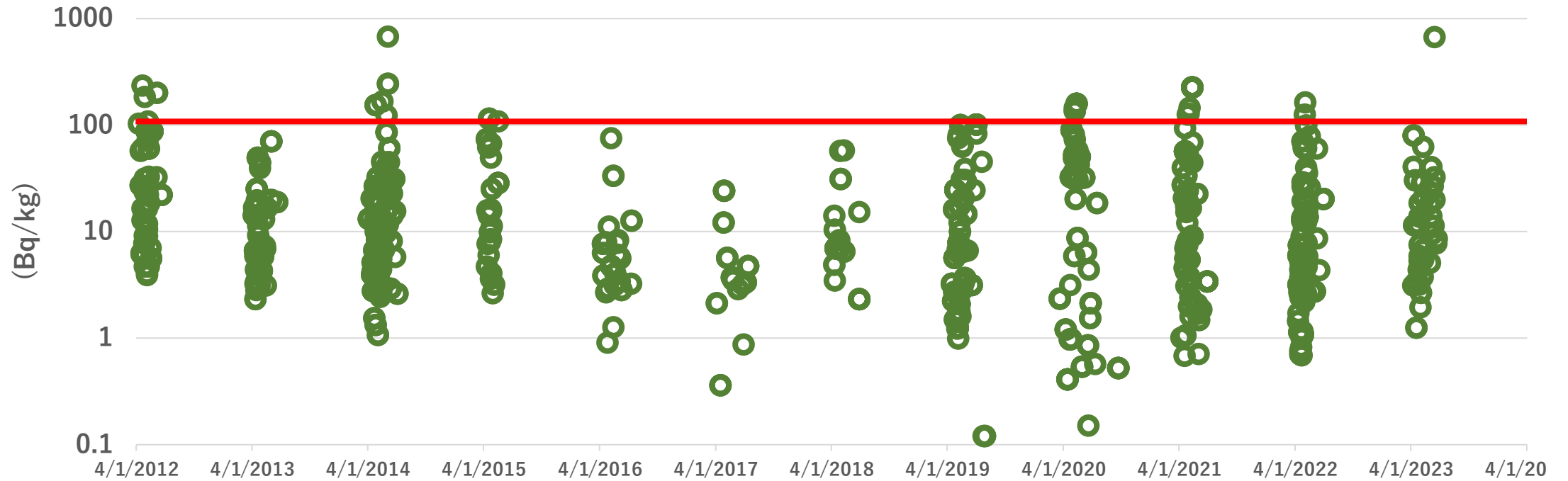
# 図T-5 2023山菜の放射性セシウム測定結果の度数分布



山菜の放射性セシウム濃度は10 Bq/kg未満が75% (139/185) で、そのうち検出下限値未満は58% (107/185) でした。食品基準値超過は11件で、最大値は栃木県那須郡那須町のコシアブラで521 Bq/kgでした。なお、山菜の中央値は検出下限値未満でした。



## 参考1 MDSタケノコ(n=952)放射性セシウムの経年推移

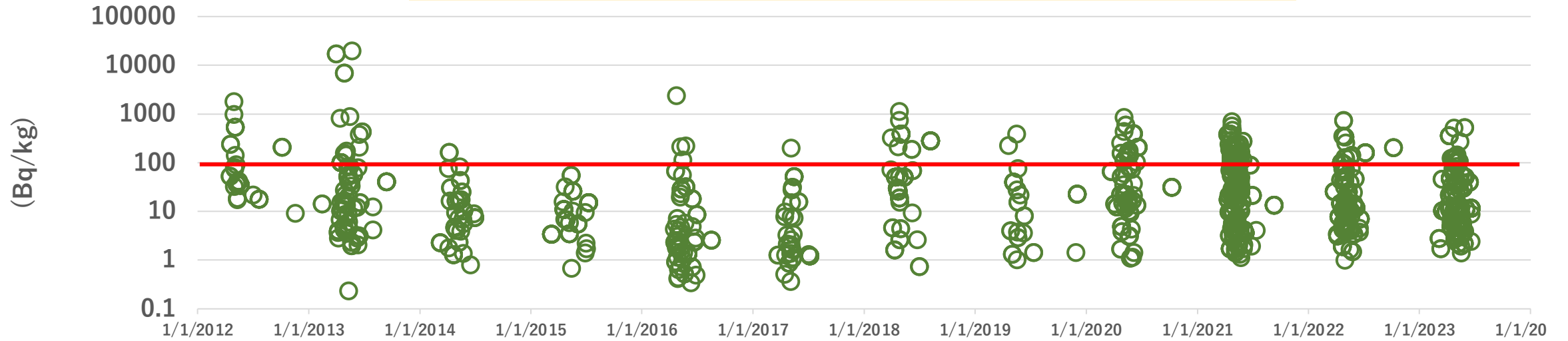


\* MDS : みんなのデータサイト

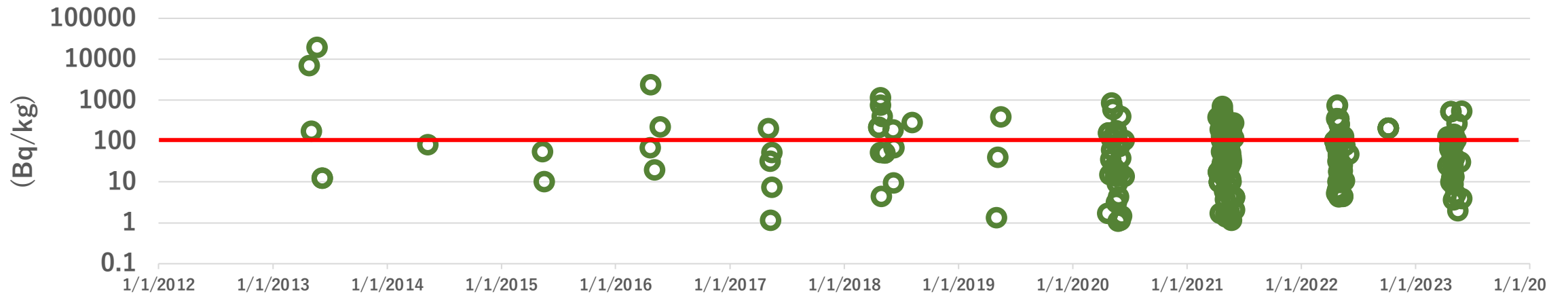
\* グラフはMDSデータベースより抽出したデータを基に作成

\* 赤線は食品基準値100 Bq/kgを示す

## 参考2 MDS山菜(n=1151)放射性セシウムの経年推移

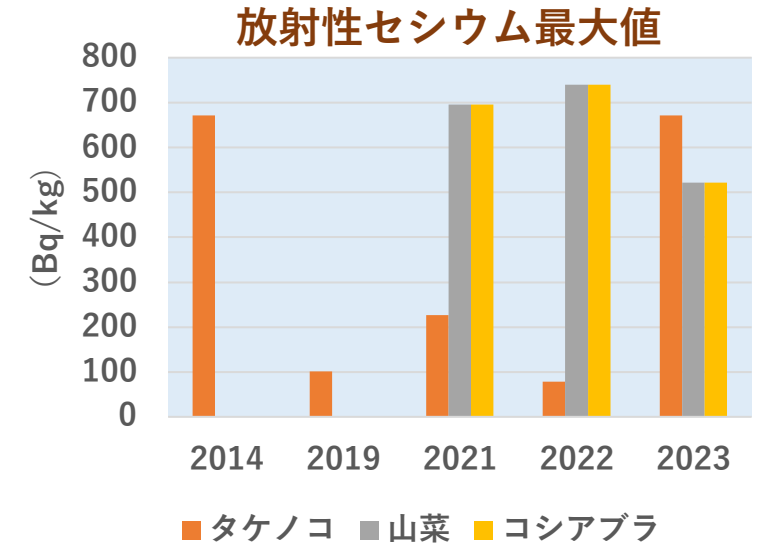
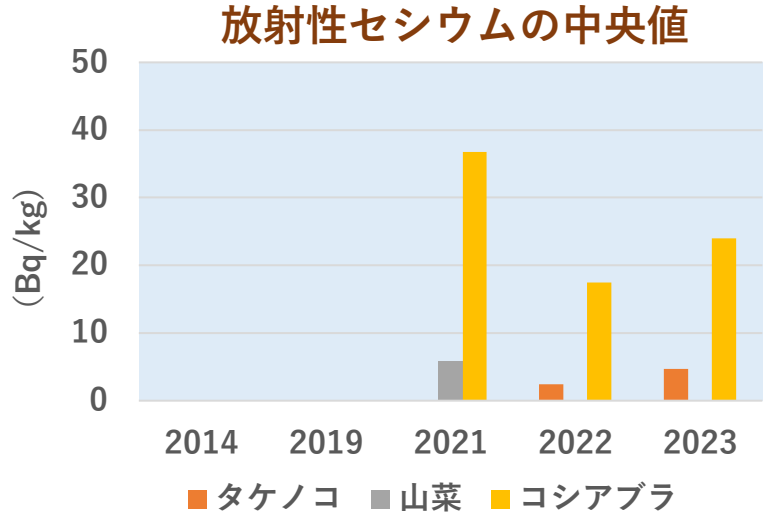
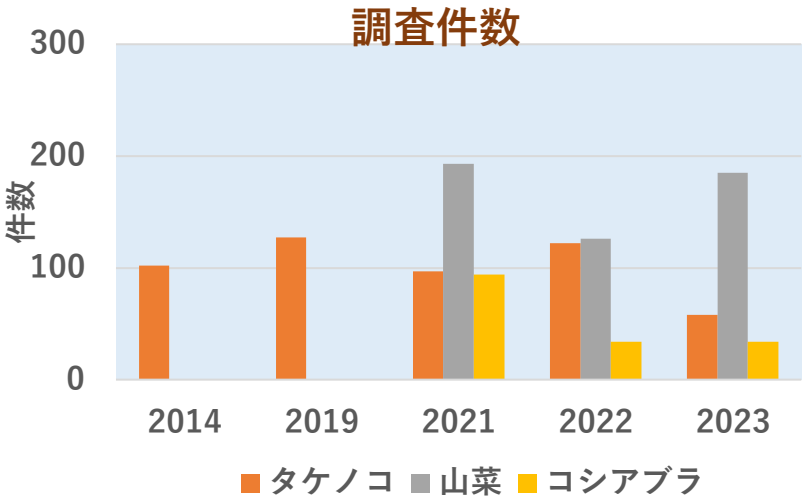


## 参考3 MDSコシアブラ(n=240)放射性セシウムの経年推移

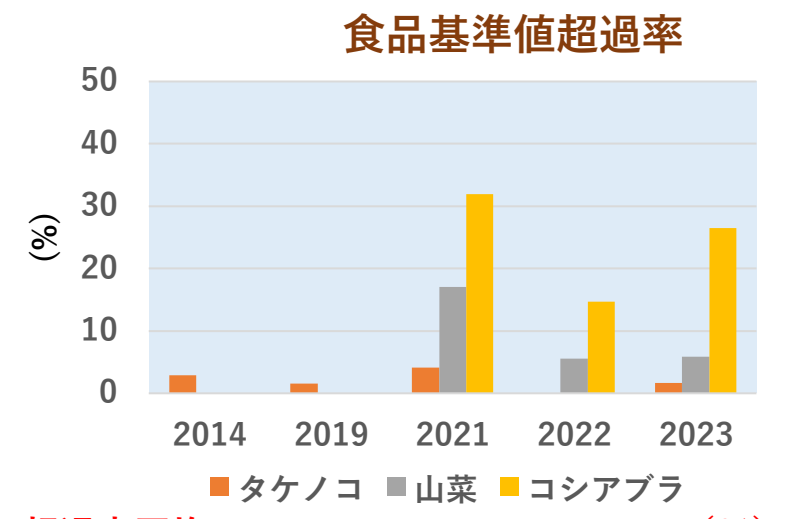
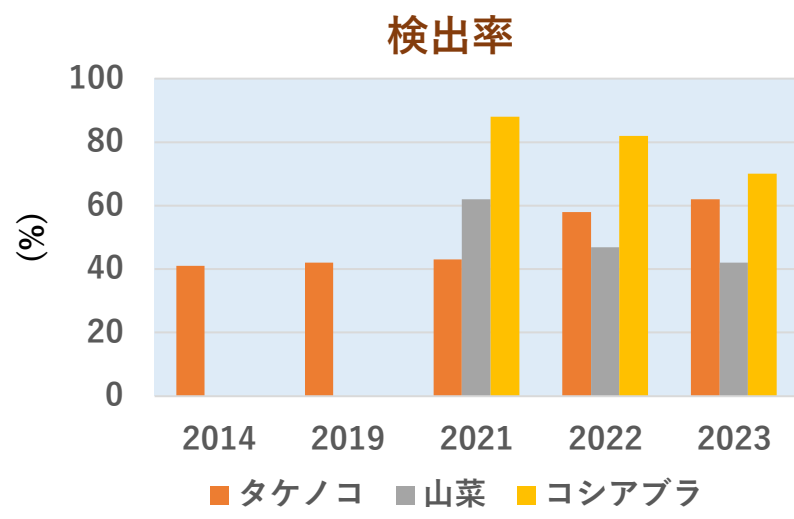


\* 上段の山菜データからコシアブラのみ抽出したものを下段に示した。食品基準値超過へのコシアブラの寄与が明らかです。

# 参考5 これまでのMDSプロジェクトにおける調査年毎のまとめと推移



タケノコ・山菜プロジェクトは2021年から開始



\* 山菜のデータはコシアブラも含む

超過率平均： 2.1 9.5 24.4 (%)

# 2023タケノコ・山菜プロジェクト放射性セシウム測定結果のまとめ

- ・ タケノコは、モウソウダケ・マダケを42件、ネマガリダケとハチクを各7件、ホテイチクとカラダケを各1件の58件を調査。検出下限値以上で検出されたのは62% (36/58) で、最大値は福島県双葉郡浪江町で採取されたハチクの671 Bq/kg、中央値は4.7 Bq/kgでした。今なお多くの市町村で出荷制限・出荷自粛が出されていますが、本調査では、浪江町の解除された帰還困難区域の特定復興拠点地区で採取されたハチクのみが食品基準値(100 Bq/kg)を超過しました。

- ・ 山菜は24種で185件、コシアブラは汚染地指定17都県以外の2県からの3件を含む計34件を調査。山菜の検出率は42% (77/185) で、最大値は栃木県那須郡那須町産のコシアブラで521 Bq/kg、中央値は検出下限値未満でした。食品基準値を超過したものは、コシアブラ9件、タラノメ2件の11件で、基準値超過比率は5.9% (11/185) でした。コシアブラの超過比率は26.5%と高く、山菜の中での高濃度傾向は続いています。

山菜で基準値超過のあったコシアブラは、栃木県4件、宮城県3件、新潟県・長野県各1件の4県にわたる計11件に基準値超過が見られ、最大値は521 Bq/kgで中央値は24.9 Bq/kgでした。同じくタラノメは調査件数が32件で、栃木県1件、宮城県1件の計2件に基準値超過が見られ、最大値は355 Bq/kgで中央値は3.8 Bq/kg でした。

基準値超過11件のうち、縁故品10件については、非売品で汚染度を確認するための測定と推測されました。残り1件は通販品で出荷制限有りの地域からの販売品でした。出荷制限ありの地域からの販売品については行政対応が必須です。また、縁故品であっても、出荷制限無し地域のものについては、行政の監視の甘さが露呈しています。基準超過品については、出荷制限の有無に関わらず、行政・出荷者・流通業者への注意喚起が必要です。

- ・ 最後に、みんなのデータサイトはタケノコ・山菜プロジェクトに2021年から取り組んでいます。放射性セシウム濃度について、2023年までの3年間の推移を見ると、コシアブラが継続的に高い濃度を示し、基準値超過率の平均も24.4(14.7-31.9)%で、山菜全体の9.5(5.6-17.1)%、タケノコの2.1(0-4.1)%よりも高い傾向を示しています。

福島原発事故によって環境中に放出された  
放射性セシウムは、まだまだ、山野に残留しています！

山野のものは測ってみないと分からない、  
採取場所がほんの少し違うだけでも  
放射性セシウムの濃度が大きく異なります。

山野草や野生獣肉は、  
「測って判断」を心がけましょう。

**お近くの市民放射能測定所にご相談ください！**

<https://minnanods.net/labs/>